

月曜評論

来る十二月一日から五日間の
 フォード大統領訪中が発せさ
 れた。今回のフォード訪中は、
 すでに一年前の米ソ首脳会談
 (ウラジオストク)の帰途、

一方、米中関係に限って問題
 を見るなら、フォード訪中によ
 ってきたものであり、その経緯から
 現るのかという点、そのよう
 な観測は一般にはなく、キッシ
 ンジャー長官もこの点では否定
 的な言葉をもっている。以上

から、米中関係という台湾問
 題がすぐにクロス・アップさ
 れ、台湾問題の解決がないかき
 アメリカからの小麦輸入の問
 題、最惠国待遇供与の問題、凍
 結資産の同時解除の問題、航空
 機の乗り入れ問題、銀行の直接
 取引の問題などがあつた。これ
 らの、主として米中経済関係に
 かかわる問題も、いまや無視で
 きない重要な問題もあつた。こ
 うして、いまや台湾問題

トを専門的に論じたものであ
 る。
 現在すでに米中間には衛星通
 信施設、航空機、海底油田探
 施設などの民間商社が進んでお
 り、私も去る一月訪中したと
 き、上海空港でアメリカの航空
 機会社の専門家と出合つて驚い
 た経験があるが、こうしてす
 だに多くの米人技術者が中国に
 向いている。海底油田探採のた
 めの水中聴音施設はそのまま対
 潜水艦探知に転用できるそうだ
 が、ビルスベリイ論文もいうよ
 うに、さらに核警報システム、
 核抑止システムなど、対ソ軍事
 戦略上不可欠な軍事情報・軍事
 技術の交換にまで進む可能性も
 なしとはいえない。

フォード訪中と米中関係



中嶋 嶺雄

キッシンジャー國務長官が中国
 に立ち寄って合意をとりつけて
 きたものであり、その経緯から
 現るのかという点、そのよう
 な観測は一般にはなく、キッシ
 ンジャー長官もこの点では否定
 的な言葉をもっている。以上

り米中関係の進展はあり得ない
 と考えられてきた。問題を米中
 国交の樹立という点に絞れば、
 依然としてそのとおりだが、台
 湾問題は、今日の米中双方にと
 つて、当面、現状維持しかあり
 得ず、この点では、米中双方ど
 も進退兩難の状況にあるといえ
 る。こうして、いまや台湾問題

日米安保体制への積極的評価や
 朝鮮半島を含むアジアからの米
 軍のこれ以上の撤退を望まない
 姿勢(この点では、去る五月二
 十日の天津における喬冠華・外
 相の外交演説を、アメリカ國務
 省も大きく注目している)など
 も、このような中国側の認識変
 化の反映であろう。こうした状
 況が生まれつつあるだけに、ア
 メリカ側としても毛沢東健在の
 うちに中国側と協議し、周恩来
 總理の政治の第一線からの後退
 ののちの中国の後継者問題を探
 ってみる必要もあろう。

こうした米中関係の新しい段
 階に、(九月八日号)も注目し
 提携の可能性と、そのメリッ
 の軍事圧力を抑止するものであ
 ること。③モスクワを不当に刺
 激して米ソ間の緊張緩和を危機
 に陥れることのない、範圍のも
 のであること。④という二つの
 前提条件のうえで、米中軍事
 提携の可能性と、そのメリッ

するといつた一連のハフニング
 があつた。そのあとに、今
 回の米中首脳会談は米中関係の
 枠組を越えた意味を当然もつ
 るといえよう。

こうした前提において、問題
 を考えてゆくと、まず第一に、
 米中間の谷間としての台湾の間
 題の状況変化が指摘できよう。

このように、米中双方ど
 ちも進退兩難の状況にあるといえ
 る。こうして、いまや台湾問題
 な問題は、米中双方の連絡事務
 所を通じて交渉し得るものであ
 っている。最近の中国首脳が示す

トを専門的に論じたものであ
 る。
 現在すでに米中間には衛星通
 信施設、航空機、海底油田探
 施設などの民間商社が進んでお
 り、私も去る一月訪中したと
 き、上海空港でアメリカの航空
 機会社の専門家と出合つて驚い
 た経験があるが、こうしてす
 だに多くの米人技術者が中国に
 向いている。海底油田探採のた
 めの水中聴音施設はそのまま対
 潜水艦探知に転用できるそうだ
 が、ビルスベリイ論文もいうよ
 うに、さらに核警報システム、
 核抑止システムなど、対ソ軍事
 戦略上不可欠な軍事情報・軍事
 技術の交換にまで進む可能性も
 なしとはいえない。

(東京外語大助教)